

講義名	金融特論			授業形態	
担当教員	羽森 直子	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 3時限		
		単位数	0	履修開始年次	1年生

主題と概要

経済学の中の金融論という分野の基本的な事項について講義を行う。基本的な理論だけでなく、日本の金融仲介機関、資金循環、中央銀行である日本銀行の金融政策等、実際の金融事情についても取り上げる。また、適時ディスカッションも行う。

到達目標

- (1) 金融論の基礎理論を理解することができるようになる。
- (2) 日本の金融事情に関する問題を分析することができるようになる。

提出課題

数回、宿題レポートを提出していただく予定。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に、小テストと宿題レポートの講評と解説を行う。

評価の基準

毎回実施する小テストの成績に基づいて評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

- ・ミクロ経済学、マクロ経済学の初歩的な知識があったほうが望ましい。
- ・毎回、授業の最初に復習テストを実施するので、遅刻しないようにしていただきたい。
- ・講義中は私語を慎み、他の受講生の迷惑にならないように心がけよう。

教科書

.使用しません。

参考図書

.なし。

その他

適時、資料を配布する。参考文献は、講義で適時紹介する。

授業計画

1. 授業の狙いと進め方
2. 金融仲介機関 (1)
3. 金融仲介機関 (2)
4. 銀行の金融活動
5. 企業の金融活動 (1)
7. 企業の金融活動 (2)
8. マクロ経済の指標
9. 金融政策の経済モデル (1) : 古典派モデル
10. 金融政策の経済モデル (2) : ケインズ派モデル
11. 中央銀行と金融政策
12. 金融政策のフレームワークと波及メカニズム
13. 日本銀行の金融政策運営 (1)
14. 日本銀行の金融政策運営 (2)
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・毎回実施される小テストの試験対策として、講義ノートや配布資料を復習して、しっかり理解しておくこと。（3時間×15回=45時間）
 - ・数回宿題レポートの提出を求めているので、その作成のための調査、まとめ等を行うこと。（15時間）
- （合計60時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

DP (1)-1との関連性：目標を達成することでDPに貢献できる。
 DP (1)-2との関連性：本科目は流通科学分野の本流科目ではないが、所定の目標を達成することでDPの「高度専門職業人として、より実践的・課題解決的な能力を身につけること」に貢献できる。
 DP (1)-3との関連性：本科目は流通科学分野の本流科目ではないが、所定の目標を達成することでDPの「専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させること」に貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

・授業に関する質問をメールで行う場合、必ず大学から配布されたアドレスから送信すること。